

実習指導者が企画した 指導者育成プログラム

令和4年度実習指導者育成ワーキング

実習指導者育成ワーキング

実習指導者育成ワーキング（以下実習指導者育成WG）は、平成26年度より臨地実習現場での実習指導の質の向上を目的としてスタートし、今年度9年目を迎えた。

【WG構成メンバー】 15名

WG長（看護師長）、看護師長 2名、副看護師長 6名（内2名教育担当）
実習指導経験のある看護師 6名（途中交代あり）

- 目的 臨地実習現場での実習指導の質を向上させる
- 目標
- ①実習指導者会議の企画・運営・評価を行い、
実習指導に伴う課題に対して改善策を立てることができる。
 - ②実習指導者以外のスタッフに対して、
実習指導要項の活用を促進することができる。
 - ③実習指導者研修会の再構築を行い、
効果的な指導ができる実習指導者を育成する。
 - ④看護学生への実習指導の質を担保することができる。

実習指導者育成ワーキング

令和4年度 実習指導者育成WG活動計画

	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第2月	日	なし	9	13	11	(8)	12	3	14	12	16	13	13
	実習指導者育成WG		WG活動計画立案	会議内容の検討・運営評価(単回) 研修会の運営評価(単回)				実習指導体制の課題抽出・改善点検討		報告書作成		研修会評価(全体) 次年度研修会企画	WG活動評価 会議・指導要項評価 学生アンケート評価
第3木	運営WG		19		21				17			16	
第4金		22				26		28	25			24	なし
	実習指導者会議	運営・評価 ①今年度の活動計画 福岡女学院看護大学 実習説明会			福岡看護大学 実習説明会	②実習指導に関する情報共有	九州大学保健学科 病院実習連絡会	③議題「おける実習と演習」 第一薬科大学 福岡看護大学 実習説明会	④実習指導体制に関する情報共有	福岡女学院看護大学 実習説明会		⑤会議の目標評価と振り返り 一年間の評価	
5回/年		なし			4	2	14	17	なし	なし	20	なし	なし
	実習指導者研修会			研修会運営・評価	看護基礎教育課程 実習指導の原理	看護学生の動向 看護過程	カンファレンスの指導方法・事例検討	実習指導の実際 事例検討			研修会運営・評価	まとめ	事後アンケート 集計・分析 報告書作成
2回/年				事前アンケート集計	4	2							
	実習指導者研修アドバンスコース				研修会運営・評価 看護基礎教育課程 ガイダンス	看護学生の動向 看護過程							

実習指導者会議

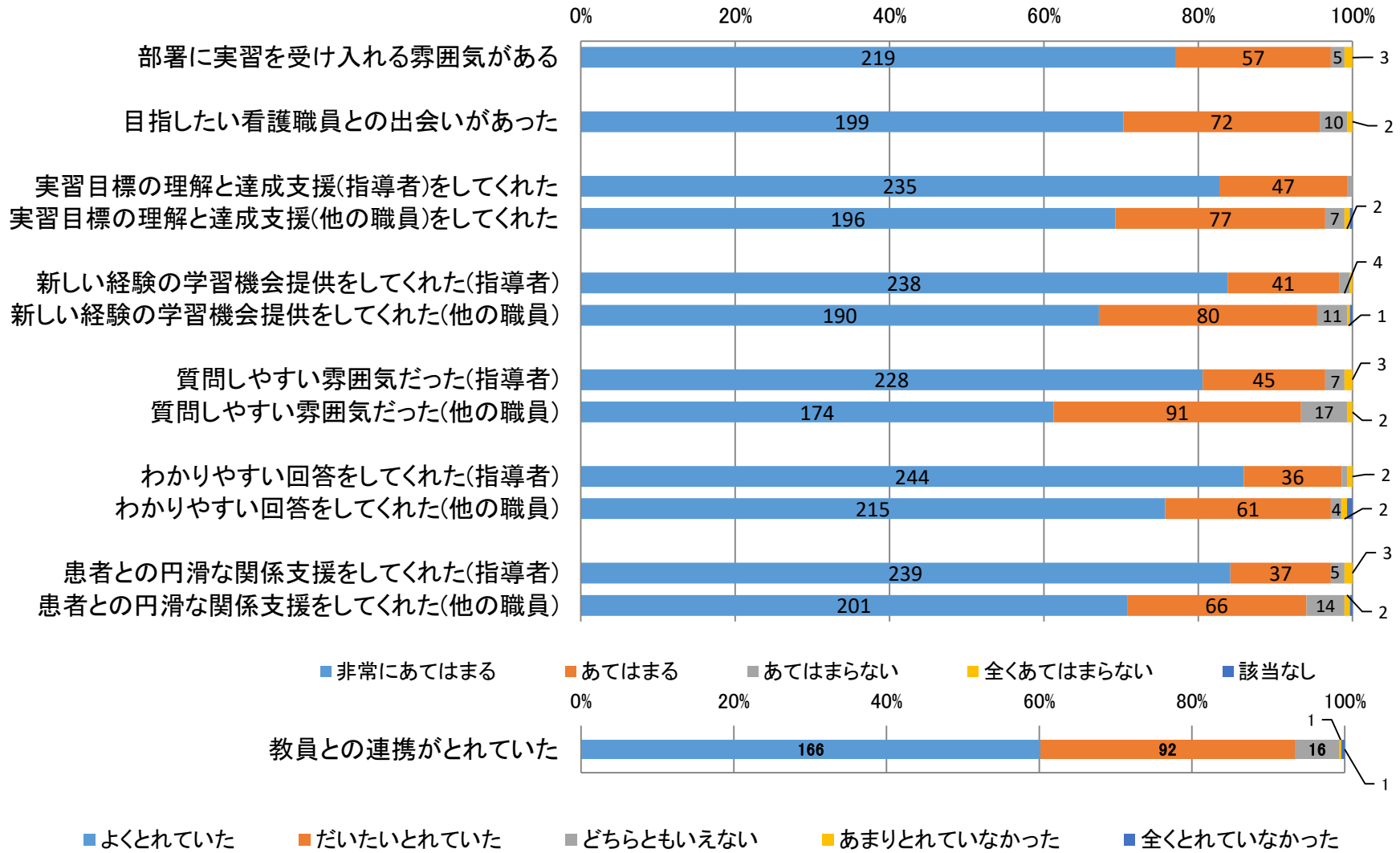
目的 実習内容及び実習指導に関する事項を検討し、併せて実習指導者の資質向上を図る

- 目標
- ①学生への教育的・効果的指導のあり方を検討し、実習指導に活用することができる。
 - ②実習指導体制の課題を抽出することができる。
 - ③実習指導に関わる問題を抽出し、対応策を実施することができる。
 - ④実習指導要項の活用を促進することができる。

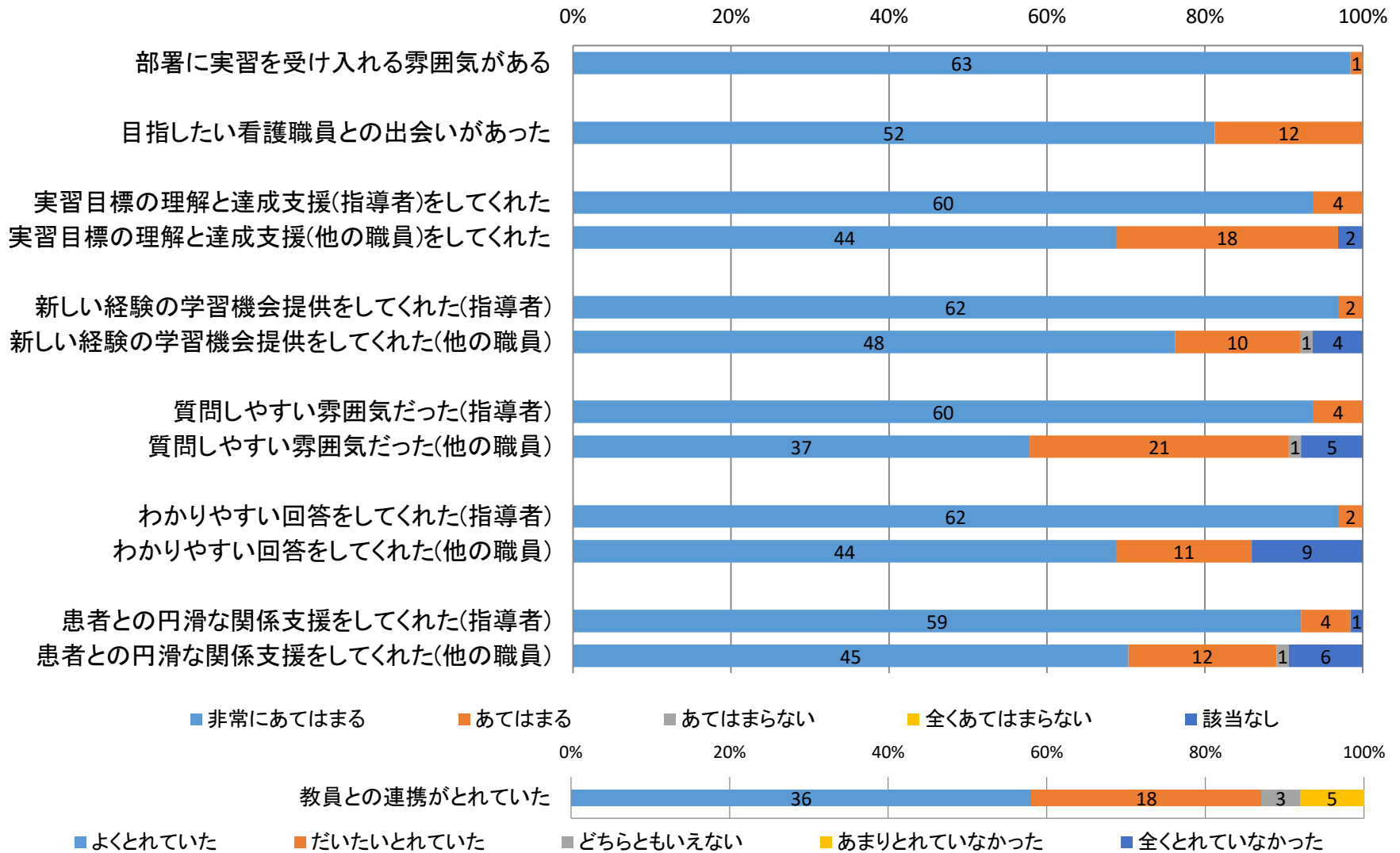
回	1				2				3	4		5
日程	4/22	4月	7月	7月	8/26	9月	10月	10月	10/28	11/25	12月	令和5年 2/24
担当	司会	教育担当							南8-1:古里 南8-2:青見	北7-1:片岡 北7-2:秋吉		北9-1:井上 北9-2:福島
	書記	教育担当			教育担当				南9-2:奥村	北8-1:小柳 北8-2:荒木		北10-1:塩満 北10-2:杉谷
会議内容	<ol style="list-style-type: none"> 会議規程について 会議構成員について 実習指導者育成WGについて 会議日程について 令和3年度実習指導者会議活動のまとめ 保健学科第16期生の卒業時の看護技術到達度について 2021年度保健学科総括について 実習指導者会議活動計画について 看護学生受け入れ計画について 令和4年度学生アンケートについて 令和4年度臨床実習指導者研修会について 令和4年度看護学実習における新型コロナウイルス感染症対策 その他 	福岡女学院看護大学 実習指導者連絡会	福岡看護大学 実習指導者連絡会	福岡女学院看護大学 実習指導者連絡会	書面回議 1.令和4年度臨床実習に関するアンケートについて	九州大学保健学科 実習指導者連絡会	第一薬科大学 実習指導者連絡会	福岡看護大学 実習指導者連絡会	1.「コロナ禍における臨床実習・学内演習」に関する情報共有	1.部署における実習指導体制の現状と課題、対応策について	福岡女学院看護大学 実習説明会	会議の目標評価と振り返り (実習指導体制における課題とその対策、実習指導要項の活用状況の振り返り)
		該当部署のみオンデマンド配信	各病棟にて	該当部署のみオンデマンド配信		該当部署のみ紙媒体配布	該当部署のみ	該当部署のみ			該当部署のみオンデマンド配信	

WGメンバーが会議の企画・運営に参画し、第4回会議ではファシリテーターとして参加した。各部署における実習指導体制の課題と対応策について、同じ領域で意見交換や情報共有、対応策の検討を行った。

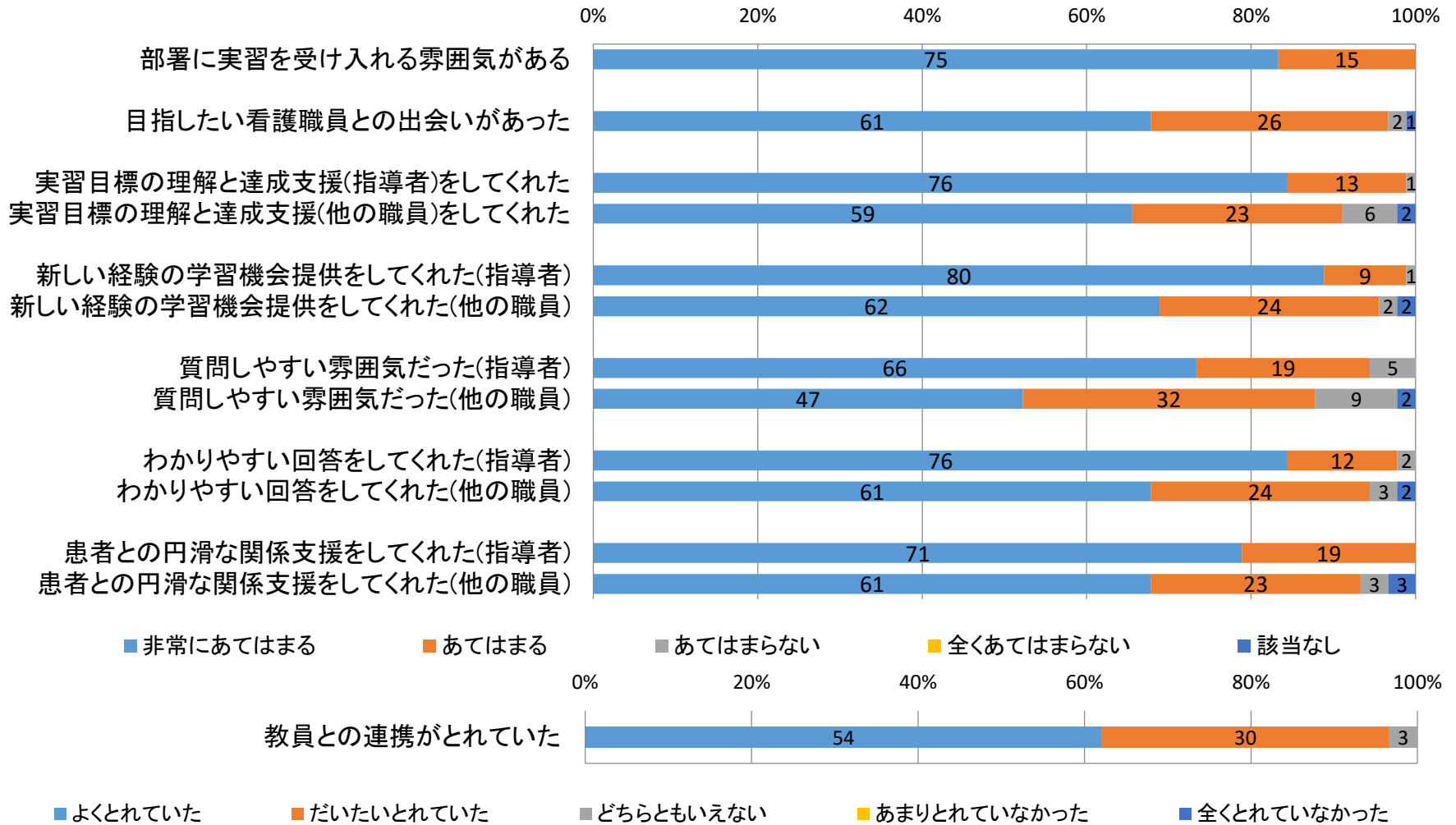
実習指導者会議 - 学生アンケート結果 -



実習指導者会議 - 学生アンケート結果 -

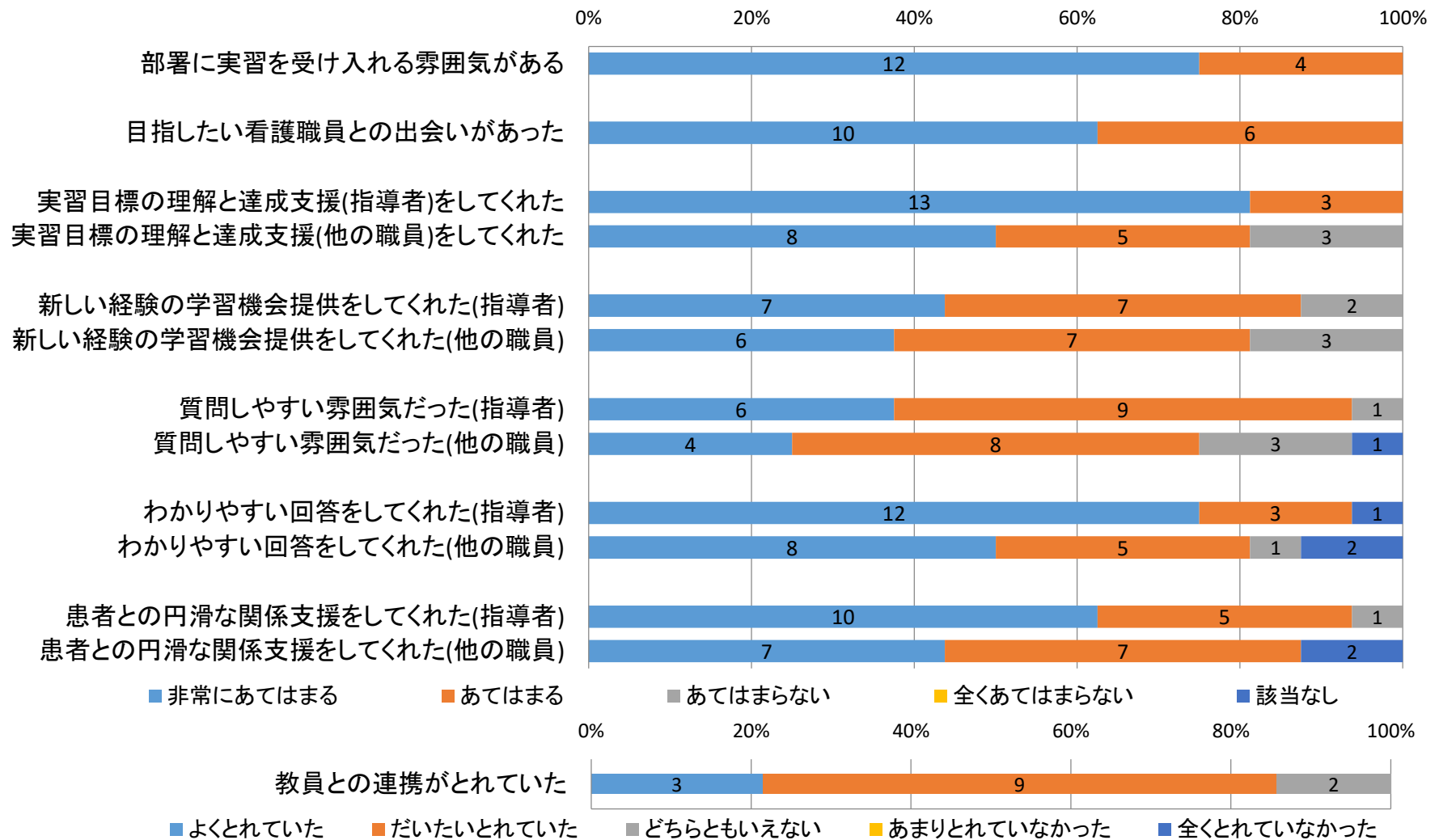


実習指導者会議 - 学生アンケート結果 -



看護学生による臨地実習に対する評価 (C大学) n=90

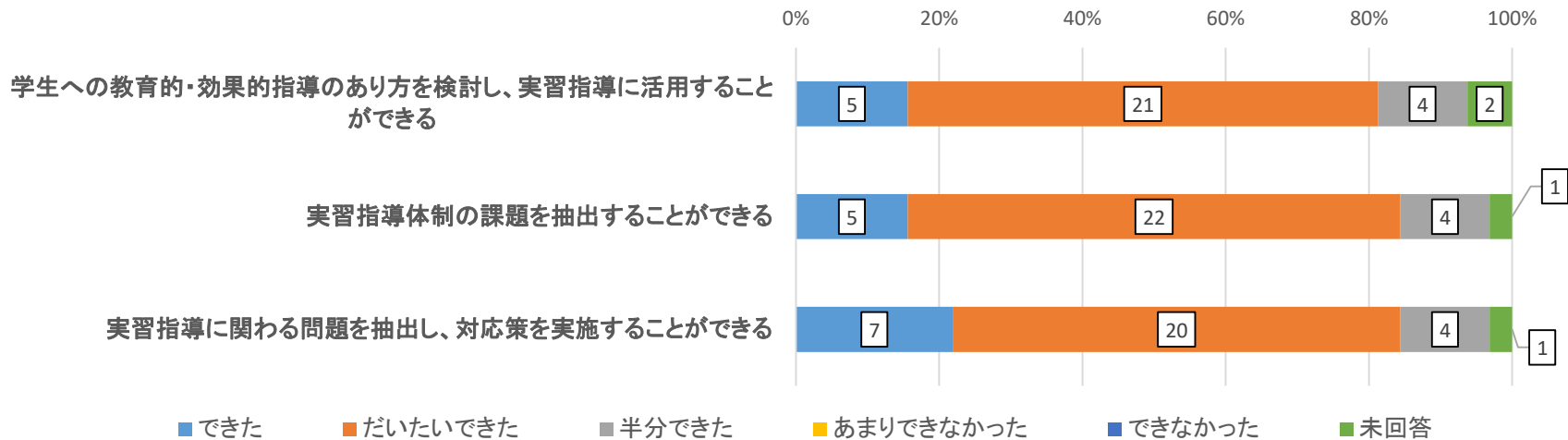
実習指導者会議 - 学生アンケート結果 -



看護学生による臨地実習に対する評価 (D大学) n=16

実習指導者会議

会議目標の評価



評価まとめ

実習指導者会議構成員として、部署での課題や対応策の検討について、80%以上が「できた」「だいたいできた」と評価した。実習指導体制の課題や実習指導に関する問題を部署で抽出し、それを会議で他部署のメンバーと共有することで、よりよい対応策を検討し取り組むことができていた。

臨地実習指導者研修会

- 目的 ①看護教育における実習の意義及び実習指導者としての役割を理解し、効果的な実習指導ができるよう必要な知識を習得する。
- ②自己の看護観の再構築と実習指導者像の形成を目指す。

対象者：新たに臨地実習指導者となる看護職員45名
九州大学医学研究院保健学科部門の教員と協働で開催

回	月	テーマ
1	7月	看護基礎教育課程 実習指導の原理
2	8月	看護学生の動向 看護過程
3	9月	カンファレンスの指導方法 事例検討
4	10月	実習指導の実際 事例検討
5	1月	まとめ

WGメンバーは、研修スケジュール作成、事例作成、ワークシート・発表形式の検討、当日の運営や司会進行を担当した

第3回・第4回実習指導における困難事例の検討

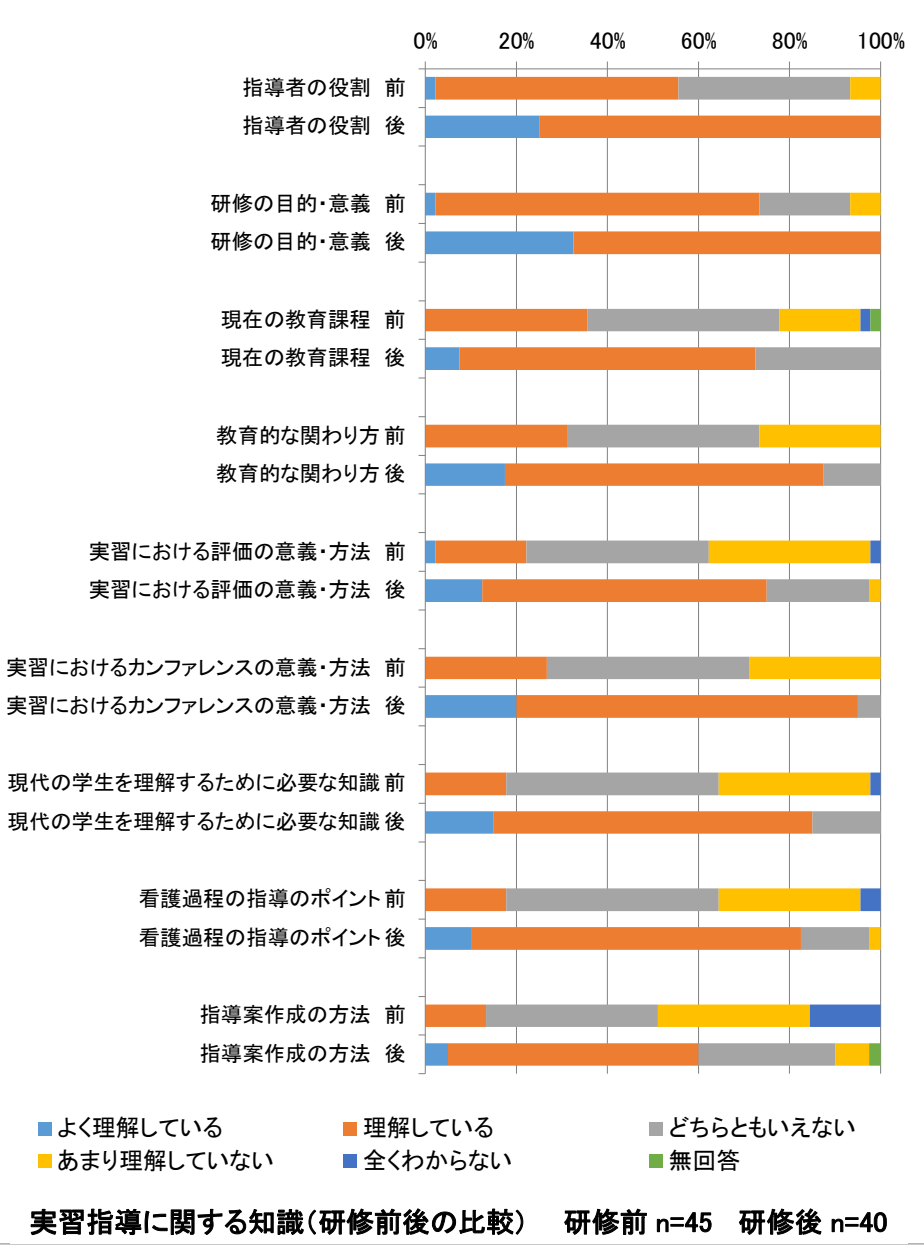
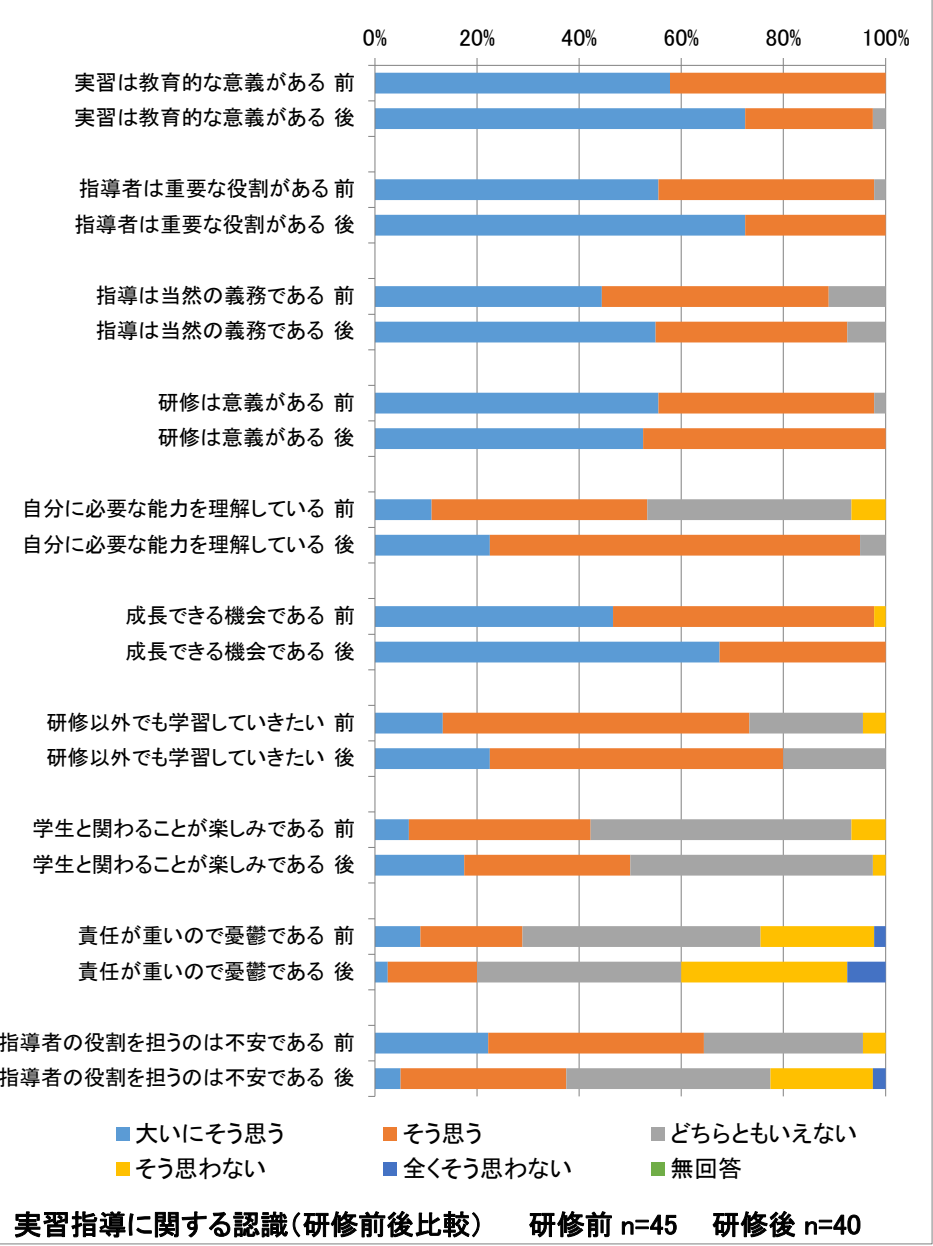
目標

- ①事例検討を行い、多角的な視点から問題点を分析できる
- ②学生指導の多様なアプローチを見出し、他者と共有できる

参加者の学びや感想

- 実際によりそうな事例だったので身近に考えやすい機会となった。
- 自分では気が付けなかった点について、グループワークを通して気づくことができ、多様なアプローチについて学ぶことができた。

臨地実習指導者研修会 - アンケート結果 -



臨地実習指導者研修会 – アンケート結果 –

教師効力尺度得点 (研修前後データの比較)

研修前 n=45 研修後 n=40

	平均値	±標準偏差
【総合得点】		
研修前	64.7	10.5
研修後	90.6	9.5
【カンファレンスを実施できる自信】		
研修前	12.0	2.1
研修後	15.5	2.2
【看護実践能力を活用できる自信】		
研修前	8.8	1.7
研修後	13.3	1.9
【学習者として学生を尊重する自信】		
研修前	10.6	2.0
研修後	17.2	2.0
【学びを深めるために技法を活用できる自信】		
研修前	9.2	1.8
研修後	12.9	1.8
【実習教育の準備ができる自信】		
研修前	9.0	1.9
研修後	12.9	1.9
【学生の状況を判断できる自信】		
研修前	7.5	1.9
研修後	9.6	1.4
【学生の学びを促進できる自信】		
研修前	7.6	1.5
研修後	9.2	1.4

「臨地実習における学生の学習にどの程度効果的な影響を及ぼすことができるかという信念」に関する変化をみるために、「臨地実習に対する教師効力尺度（坪井ら、2001）」を用い、研修前後における比較を行った。

研修前では、各項目において昨年度より得点は低かったが、研修後にはほとんどの項目で昨年度よりも得点が上がった。目標となる、あるいは相談できる先輩や上司の存在が、研修後には上昇していることから、研修や実習指導経験を積み重ねる中で、他者に相談しながら実習指導に関する自信をつけていくことができたのではないかと考える。

臨地実習指導者研修会－アドバンスコース－

目的：看護教育における実習の意義及び実習指導者としての役割を再認識し、実習指導に活かす

対象者：条件を満たし推薦を受けた看護職員21名

回	月	テーマ
1	7月	看護基礎教育課程 実習指導の原理
2	8月	看護学生の動向 看護過程

【研修後の学びや感想より】

- 実習指導者として、様々な年代の学生と接するため、学生の特徴を理解し、関わり方や声のかけ方、指導の方法に役立てたい。
- コロナ禍で実習が思うようにできていない現状や、Z世代であり世代間交流の機会のない学生が多いと分かった。電子カルテからの情報をとることが苦手な学生や患者とどう接していいか分からない学生も多いようなので実習の際にフォローできるようにしたい。

まとめ

- より効果的で効率的な実習指導者の育成を目指し、研修内容についてWG内で検討を重ねた。
- 臨地実習の場において学生の直接的なコミュニケーション支援の課題もみえてきており、研修へ取り入れることができた。
- 学生の学びの支援、学生と患者、学生と病棟スタッフとの調整、そして感染防止に配慮しながら効率的に実習を進める点において、実習指導者の役割は重要性が増している。
- 今後も変化する状況に対応ながら役割を担うことが出来る指導者の育成と、部署全体で実習を受け入れる態勢を整えることを目指し実習指導者育成WGとして活動していきたい。